

令和6年度 学校評価アンケート分析

令和6年10月実施

＜結果と分析＞

	番号	成果・課題等	改善策・向上策・目標等
教務部	1	生徒に関しては、「当てはまる」との回答が昨年と比べると23.4%から31.4%に増加、「あまり当てはまらない」「当てはまらない」の合計は、13.5%から6.7%と大幅に減少した。保護者に関しては、7.3%が「あまり当てはまらない」と回答している。	今後も、総合学科の特色を生かし、教育目標を達成できる教育課程を編成できるよう、見直しを行っていききたい。
	2	昨年度と比較して、「よく当てはまる」と回答した生徒が17.8%から33.1%に大幅に増加した。教員が生徒の実態を把握したうえで授業改善を行い、適切な教材で適切な指導を行っているからだと考えられる。	今後も他の先生の授業を見学したり、先輩教員の指導を受けたりしながら授業改善の工夫を行っていききたい。研究授業週間だけでなく、普段から他の先生の授業を見学し、意見交換をしながら、授業において生徒の学ぶ意欲を引き出せるような工夫を行って行ききたい。
生徒指導部	3	生徒・保護者・教員ともに「よく当てはまる」の数値が向上した。特に生徒・教員における数値は大幅に向上しており、マナーアップ運動や普段の学校生活の指導を通して挨拶やマナー、生活習慣の指導を教員側は行っている、生徒側は受けているということを実感していると考えられる。一方、保護者は微増にとどまったので、指導を行っていることを何らかの方法で周知していく必要がある。	校内での指導について保護者に知ってもらうことが必要であるとを感じる。一斉メールなどで交通マナーや服装の指導を実施したことを教室掲示資料などを添付して知らせるなどの方法をとってければと思う。また指導をしている、受けているという実感があってもなかなか身だしなみの徹底ができていない部分もあるため、引き続き教員が一丸となって指導に当たっていく必要がある。
進路指導部	4	本年度は、進路行事を各年次ごとに適切と思える時期に実施するように行ってきた。各行事を通じて多くの生徒たちが高校卒業後のことを考えるきっかけとなっている。進路目標の不明確な生徒への働きかけを行うことや教員間の連携、保護者への情報発信などが課題となっている。	生徒の進路目標の達成のために、進路指導部・年次・担任・生徒・保護者及び各系列間の連携を密にしながら、共通理解のもとに進めていききたい。
保健厚生部	5	「よく当てはまる」の回答が生徒、教員とも増加し、低評価も昨年度より減少した。しかし県の予算削減による来校時間の減少に伴い、PTA総会での紹介を実施しなかったためか、保護者の肯定的評価93%から76.4%に大幅減となってしまう。	できれば保護者への紹介を実施しSCのPRを強化する。SC・SSWの紹介に加え三者面談での資料配布、学校サイトへの年間計画を掲示して保護者に周知し、日程の変更も即時に反映させていききたい。また、学校全体で教育相談に取り組むためにカウンセリング研修会を実施し、カウンセリングマインドの資質向上を図りたい。
生徒指導部	6	生徒は全ての数値でほぼ横ばい、保護者は「あまり当てはまらない」が15%程度増加、教員は「あまり当てはまらない」が10%程度減少という結果になった。教員の評価が向上し、保護者の評価が下がったという結果を踏まえ、学校での部活動の様子などを保護者にも周知していく必要があると感じる。	現在も学校通信等で部活動の大会結果や活動の様子を知らせているが、生徒のインタビューや部活動の取り組み、活動の内容についてさらに保護者に知っていただくような内容を盛り込んでいくことで、部活動が活発に行われていることを周知していききたい。また、「兼部」を活用して活発に部活動に取り組む生徒の増加をはかっていききたい。
	7	生徒、保護者は全ての数値で昨年度と大きな変化はなかった。教員については「よく当てはまる」の数値が20%弱増加した。担当教員や生徒会所属生徒の頑張りや伝わった結果であると考えられる。一方で、生徒、保護者の評価を上げるためには、生徒会がどのような活動をしているか知ってもらうこと、またその活動がどれだけ生徒に還元されているかを実感してもらうことが大切であると考えられる。	校内での活動に積極的に取り組むことはもちろんのこと、対外的な活動、取り組みにも積極的に参加をし、その活動知ってもらえるようにしていきたい。また、校内での活動については、全校生徒からさまざまな要望事項を吸い上げ、実現可能な要望については教職員とも協力をしていながら実現に向けて動いている様子を生徒に見てもらって活動をしていくことが望ましいと考える。
	8	「よく当てはまる」が生徒では7%の増加、教員では12%の増加となった。体育祭や文化祭などの行事は楽しみにしている生徒も多く、達成感や充実感を持つことのできる重要な行事であり、今後も生徒の主体性を大切にしていよいよ行事にしていききたい。一方、保護者の「あまり当てはまらない」の数値が8%増加した点は、行事の在り方や保護者の興味を惹くような働きかけが必要である。	文化祭においては売り上げは昨年度と大きな違いはなかったものの、来場者の数は昨年度よりも少なく、近隣の中学校と文化祭の日程が重なってしまったことも影響したと考えられる。多くの保護者に参加していただくためにも、次年度以降他校の行事予定も踏まえて日程を調整していきたい。
教務部	9	教員の59.1%が「よく当てはまる」と回答しており、地域や伝統に根ざした教育活動を行っていると感じていることがわかる。一方で、生徒・保護者の回答は30%弱である。実際にどのような活動が地域に根ざしているのかが理解されていないと思われる。	各系列で行っている地域と連携した取り組みを、様々な媒体で保護者に周知したい。学校通信や各種メディア、PTA広報誌などで積極的に情報発信することが必要だと考える。
総務部	10	教職員連携のおかげで、地震や台風災害などを想定した避難訓練を実施することができた。さまざまな災害に応じた避難の在り方、避難先などの学習を深められた。また、防災アドバイザーや教職員と連携して、土砂崩れの恐れのある近くにある電源と貯水槽などの対策を思案することができている。	今後、実際に災害に遭った場合を考え、いかに学校業務を再開するかが課題になる。そのために危機管理マニュアルの中に、BCP(事業継続計画)を盛り込むことを検討していききたい。実際に災害に遭った場合で、電源が確保できない場合の外部との連絡の取り方などを記載したい。

	番号	成果・課題等	改善策・向上策・目標等
総務部	11	保護者全体では「だいたい当てはまる」が若干減っているものの微減であり、生徒、教員側は良好な結果になっている。学校の様子は、雁歌学報やホームページ、eメッセージなどで全体へ伝えている。在学生の家庭だけでなく、その他多くの家庭に情報が伝えられていると考えられる。	現状行っている情報発信を、これまでどおりスムーズに進めていく。ホームページでは各種たよりなど配布物の提示などを増やし、スマホ等でも見ることのできる環境を整備する。
事務部	12	全ての対象者において、肯定的評価が前年度より増加した。古い施設設備は多いが、トイレ改修等、計画的に更新し、また破損・故障等の場合には速やかに対応しているのも要因と考える。 課題としては、エアコン更新において、老朽化により機能低下してる教室数が県より採択された教室数よりも多いため、更新のスピード化を継続的に要望していきたい。	老朽化した施設設備が多いため、今後も現状把握に努め、引き続き関係各課と連携し、計画的に教育環境を整備していきたい。
生徒指導部	13	生徒は全ての数値でほぼ横ばいとなった。教員の数値は「よく当てはまる」が20%程度増加した。保護者の数値については、昨年度と横ばいではあったものの、「あまり当てはまらない」が30%を超えている状況が続いており、学校のいじめ対策やその取り組みについて保護者が理解できていない部分や納得できていない部分が少なからずあると考えられる。	年4回実施しているいじめアンケートの結果の概要等を個人情報等には留意した形で保護者に知らせるなどの対策を検討したい。また面談等を通して生徒の情報に耳を傾け、保護者と共有をすることを大切にしていきたい。
	14	生徒、保護者は全ての数値で昨年度と大きな変化はなかった。教員の数値は「よく当てはまる」が20%程度増加した。生徒、保護者に学校生活の充実感をより感じてもらうためには行事の充実や部活動の充実等取り組むべき課題がたくさんあると思うので、一つ一つ整理をして取り組んでいきたい。	行事についての生徒、保護者へのアンケートなど行事に対してどのような意見を持っているかを知り、改善を図っていくことで学校生活の充実度を上げることに繋げていきたい。
教務部	15	生徒・教員は「よく当てはまる」「だいたい当てはまる」という回答が増加しているが、保護者は「あまり当てはまらない」「当てはまらない」という回答が増加している。教育目標・系列目標を伝えていく工夫が必要である。	スクールポリシーは学校のホームページに掲載されているほか、学校案内パンフレットや入学のしおりなどでも確認することができる。生徒・保護者に対して、学校通信や掲示物等でしっかりと伝えていきたい。
	16	昨年度と比較し、生徒・保護者の「あまり当てはまらない」「当てはまらない」という回答が増加している。年度始めに各教科からシラバスを生徒に渡し、周知しているはずだが浸透していないことがうかがわれる。	シラバスを各期ごとに確認し、学習方法や評価方法について丁寧に教科担当者から説明を行うことが必要である。保護者に関しては、三者面談等を通して周知していきたい。
	17	生徒・保護者に関しては、昨年度と大きく変わらない数字である。一方で、教員の否定的な意見は昨年度と比較して大幅に減少している。	科目選択をするときに、科目の内容を十分に理解した上で選択できるよう、より詳しい説明を行っていききたい。
生徒指導部	18	生徒の数値は全体的にほぼ横ばい、保護者の「よく当てはまる」が10%程度減少、「あまり当てはまらない」が9%程度減少、教員の「よく当てはまる」が約12%増加、「あまり当てはまらない」が約15%減少となった。特に教員の数値が昨年度と比較して大幅に改善されたことは、昨年度からの校則の見直しや校則についての教員間での共有や意見交換ができた表れであると考えられる。	生徒、保護者に対しては校則を理解してもらうことだけでなく、校則を理解した上で守ってもらう、守ってもらうために家庭で協力をしてもらう働きかけをしていかなければいけないと感じる。そのために年度始めの生徒への周知や入学式やPTA総会等の機会を活用して保護者への周知もはかっていきたい。
進路指導部	19	行事の見直しを行い、情報提供に関しても各年次に合わせたものを行った。生徒・教員から高評価を得られた。保護者への情報提供の数値が下がっていることが課題と考える。	進路だよりやSNSでの情報発信や三者面談において資料提供、外部作成の就職情報冊子の配付などを行うなどをしっかり行い保護者の方へ情報提供を行っていききたい。
	20	19と同様に生徒・教員から高評価を得られたが、保護者への情報提供の数値が下がっていることが課題と考える。	今後も外部講師や卒業生の方の協力を得ながら進路行事を企画し、数年後の自分を考えさせるきっかけになるようにしていきたい。各担任の声がけや面談等での働きかけも重要であるのでぜひ協力をいただきたい。
保健厚生部	21	垂直避難の訓練などのためか生徒の「よく当てはまる」は43.2%に増加し9.4%が肯定的評価だが低評価が5.9%と微増。教員の評価は上がったが保護者の「よく当てはまる」が減少し、低評価が7%から) %に微増。保護者と教員の認識の差が大きい。	ほけんだよりのメール配信とHP掲載を継続する。講習会や研修、感染症予防などの情報を速やかに発信する。加えて登下校時の安全運動や避難訓練などの情報も併せてメールやHPなどで保護者に発信していく。
総務部	22	昨年度設置した「ミニ図書館」の展示を定期的に入れ替えている効果もあってか、「よく活用している」と回答した割合は生徒・保護者・教員共に増えている。特に、教員の活用率は昨年度に比べて大きく増えており、教科・系列の学習内容を意識した選書の効果が見られる。ただし、「活用していない」と回答した生徒・保護者の割合は昨年度より増加しており、積極的に図書館を利用しない層への働きかけが求められる結果となった。	図書館だよりの内容のより一層の充実や、掲示物による図書館の認知度を上げる工夫を引き続き行っていききたい。特に図書館だよりは今年度の途中から保護者へ向けにeメッセージで配信も行っているため、外部へも図書館の活用例がわかるような工夫を加えていく。また、図書委員の活動で、各クラスへの声がけや広報活動なども利用のきっかけとしていきたい。